

## 熊本地震から3か月を経て

ルーテル学院中学・高校 校長 林田 博文

7月11日（月）パイプオルガンの響きとともに礼拝堂での礼拝再開、礼拝堂改修記念礼拝。

ルーテル学院は、生徒の心と共に熊本地震を乗り越え、前に進もうとしています。その証が、礼拝堂での礼拝再開です。高校3年生が再開後初めての礼拝を、誇りとすべき礼拝堂で行いました。

神様からの祝福と恵みを、崔チャプレンの説教を通して、受けることができました。



やがて、熊本地震本震発生から3か月。未だ、余震が続き不安な中に過され、避難所生活を余儀なくされている方も多くおられることと思います。ルーテル学院が授業を再開して2か月余りが経過しようとしています。

現在の学院の様子は、「感謝！」の一言です。復旧工事は、九州建設様をはじめ工事関係者の皆様の働きと地域の方々の協力で順調に進んでいます。生徒たちの学校生活は、先生方に守られ安全に授業を受け、一人ひとりの自覚の上に充実した日々が送られています。

ここで、感謝の思いを込めて、今の学院の様子を報告させていただきます。

写真と共に復旧工事の様子を報告します。



被災した**オルガン**も復活し、私たちの心に響く音を奏でてくれるようになりました。

改修記念礼拝では、オルガニスト加藤麻衣子さんが前奏と讚美歌、後奏を弾き、華を添えてくださいました。

芸術コースの生徒たちは、久々の礼拝での奏楽にやや緊張気味。生徒たちは、素敵な奏楽に合わせて毎朝の讚美

を行えるようになりました。ここで、感謝すべき方、建造家の神戸オルガン親子。ルーテル学院のために、岐阜県から駆けつけてくださり、ボランティアでオルガン復活の働きを持っていただきました。感謝です。

**礼拝堂**は、元の姿に甦りました。

聖壇の個性的な模様の天井、華麗な曲線を描く純白のアーチと柱、職人さんの手により見事に復元。

思わず、「お見事！」と叫びたくなるようなできばえ。

厳かな雰囲気の中で、静かに神様と自分に向き合える時を持つ空間が整いました。





そして、本館の象徴的存在である煙突、復旧工事の様子の写真です。屋根の上に据え付けられ、屋根の修復に合わせて、元の姿になります。本館煙突は、在校生・卒業生にとってシンボル、そして、ルーテル学院の復旧・復興のシンボルでもあります。皆さま方が、本館煙突をもとに近い形で目にできるのもあとわずかです。

ここで、生徒たちの様子を報告させていただきます。

未だ、生徒たちの中には、避難所での生活や仮設住宅など自宅では生活ができなかった生徒、通学時間にかなりの時間を要する生徒、家計を支える家族の地震の影響による失業や離職に不安を抱える生徒、自営業とその職場再開に不安を覚える生徒、多くの不安を抱えながら先行きの見えない生活と学校生活を送っている生徒もいます。将来の進路、特に進学への不安を抱えている生徒もいます。

そんな中であっても、生徒たちが希望を持って前に進み、小さな光を見出していけるように願いますし、教職員と生徒が共に支え合い、明るい未来を切り開いていけるよう努力していこうと思います。

普段の学校生活は、不便な状況にあっても前向きに毎日を送っております。工事のために中央階段に設けられていた間仕切りが、7月11日より、礼拝堂再開と同時に撤去されました。生徒たちは、駐輪場から教室までの動線、教室移動や売店利用がスムーズになり、喜んでおります。今から成長が楽しみな成長途上の生徒たちが、不便な学校生活の中で、葛藤の日々を送りながらも、さらなる成長を続けてほしいと願います。まだまだ、不安定な中で落ち着きのない生徒もいるかもしれません。温かな心で見守りながらも、指導すべきところは指導していきますので、これからも皆さまのご理解とご協力もお願い申し上げます。

特に、“互いに親切にする”ことは、熊本地震で被災し強く感じたことです。聖書は「人にしてもらいたいと思うことは何でも、あなたがたも人にしなさい」と私たちに教えます。この聖書からの学びが、ことばだけでなく思いと行いによって、地域社会においても実行できることを望んでおります。

生徒たちが文化系・体育系のクラブ活動で活躍している様子は、ホームページで紹介しております。

ここでは、高校総体について、紹介します。例年、高校スポーツの祭典である高校総体は熊本市を中心に開催されていましたが、熊本地震の影響で熊本市以外の県内の会場で開催されました。主な成績です。

サッカー：ベスト8

女子バスケットボール：ベスト16

男子バスケットボール：2回戦敗退

女子バレーボール：ベスト4

男子バレーボール：ベスト8

陸上：トラック競技 女子総合2位 (800M・1500M・3000Mで優勝)

バドミントン：ベスト4

女子ハンドボール：1回戦敗退

男子ハンドボール：2回戦敗退

男女テニス：個人戦に出場

女子ソフトテニス：2回戦敗退

男子ソフトテニス：ベスト8

剣道：個人戦に出場

空手：3位 (型の部)

陸上部は成長が著しく、U20 世界陸上競技選手権大会（2016 /ポーランド ビドゴシチ 7月 19 日から 24 日まで開催）の日本代表選手として、2年生矢田みくにさんが出場します。

第 69 回全国高校総体インターハイ・全国高等学校対校陸上競技選手権大会（岡山県シティーライトスタジアム 7月 29 日から）には、800mで藤川 遥さん（高 3）、1500M・3000M で矢田みくにさん（高 2）が出場します。

水泳部は、大分で行われた九州大会で好成績を残し、男女合わせて 12 名が全国高校総体に出場することになりました。

夏と言えば、野球部。負けない！第 3 シード東海大学星翔高校に、4 対 2 で接戦をものにしました。渡辺キャプテンの復興を誓った“一戦必勝”、寄せ書きにあるメッセージらしい全員野球のゲーム展開でした。

軟式野球部は、7月 19 日（火）に開会式が行われました。この大会で活躍し好成績を残して、今年も南九州大会に進んで初の全国大会出場を期待しています。

また、放送部は、「熊本地震をテーマにしたラジオ番組」と「朗読部門で大塚みなみさん」が、東京で行われる NHK 放送コンテストに熊本代表として出場します。ベストを尽くし、たのしく自分と向き合う時を過ごし、良い結果が出ることを願います。

先述しましたように、生徒たちの活動の様子は、学院ホームページで詳しく紹介しております。ぜひ、ご覧ください。そして、これからも生徒たちを応援してください！

復旧工事の今後の予定について、お知らせします。

残すは、本館 4 階部分の修復、体育館の軒天井の修復になります。天候の影響もありますが、順調にいけば、8 月中旬には、すべての工事を終了する予定です。生徒が、夏休み明けの 8 月 23 日（火）全校集会に登校する際には、震災前の教育環境を整えておきたいと考えております。

最後に、ブレント先生のことを紹介させていただきます。先生は、今年 3 月にルーテル学院中高での J3 としての働きを終え、アメリカに帰国されました。熊本地震後、ルーテル学院中高のために再来日してくれました。私は、言葉にできない程に大変喜んでおります。

一般社団法人日本福音ルーテル社団（JELA: J3 の先生方のお世話をする社団）の事務局長の森川博己さんが、以下のようなメールをルーテル学院に送っていただきました。

「この 4 月からルーテル学院中学・高等学校に勤務していた新 J3 が地震後に本国に帰還してしまいました。後任として、3 月まで同校に勤務していた前任 J3 のブレント・ウィルキンソンさんが再度来日することになりました。余震が収まらない中で GM（アメリカのルーテル教会、J3 の派遣）の要請を引き受けたブレントさん。その決断の背景がいかなるものであったか、本人にインタビューした内容を以下に掲載しました。彼の誠実さに胸が熱くなります。

<JELA>アメリカに帰った後、何か計画はあったのですか。

<ブレント>4 月から就職活動をしていて、ふたつほど決まりかけていました。高等学校の留学派遣コーディネータと、歴史・スペイン語の教員です。

<JELA>熊本でもう一度教えてくれないかと声をかけられたとき、どんな感じでしたか。

<ブレント>最初は、「冗談じゃないよ、みんなにサヨナラして、アメリカに帰国したばかりなんだよ」でした。

友だちや家族と再会できてすごく嬉しかったし、久しぶりのアメリカ生活を満喫している最中でしたから。

<JELA>熊本に大きな地震があったことを知ったのはいつですか。

<ブレント>4 月 14 日の前震が発生したときアメリカは朝でしたが、私が地震を知ったのは午後のラジオ・ニュースでした。テレビやインターネットのニュースでも目にしました。それから一週間後に熊本復帰の話が来たというわけです。

<JELA>熊本に戻ろうと思ったのには、何か理由がありますか。余震が収まってもいないのに、どうして戻って来ようと思ったのですか。

<ブレント>地震が理由です。この地震で、熊本の皆さんが想像できないほどの苦労をされていると感じました。私にできることは何か、それは、少し前まで勤めていた九州ルーテル学院の教師仲間や熊本の牧師先生たちの負担を少しでも軽くすることではないか、と思ったんです。それから、私がまた教えることで、生徒たちの教育レベルを保てたらとも考えました。

<JELA>熊本に戻る決心をするとき、家族や友達と相談しましたか。したのなら、あなたが「熊本にまた行く」と行ったとき、どんな反応やアドバイスがありましたか。

<ブレント>何年も留守にしてアメリカに帰ったばかりだったので、家族や友人のほとんどはがっかりしました。でも、私の決心をわかってくれたと思います。

<JELA>2回目のJ3として、今度はどんなことをしたいですか。前の2年間とは別の、特に達成したいことがありますか。

<ブレント>やるべきことは前と同じですが、それを、より良くできるようにがんばりたいです。生徒には英語を、前回以上にわかりやすく教えたいし、バイブルスタディも、もっと有意義なものにしたいです。

ルーテル学院のJ3は毎年、英語のカリキュラムがよりよいものになるように変更しているんですが、その改善作業にも貢献したいです。

仕事以外では、日本語がもっとうまくなりたいことと、日本のいくつかの山に登ってみたいし、ラーメンをもっとたくさん食べたいです！



～追記～

今、私は感謝の中に生かされていることを「実感」しています。私たちは、不安や試練、恐怖の中にいた時を、徐々に乗り越え、少しずつ普通の生活に戻ろうとしています。元気と勇気、平安と希望の中での生活が戻りつつあります。当たり前のごことに感謝を抱きながら、前に前に進んでいます。

地震が与えたもの、地震から受けたものは、「置かれた場所でのそれぞれの『実感』」かもしれません。怖い、当たり前なことへの感謝、厳しい現実などの実感。そして、自然には太刀打ちできない実感。自然の前で人間は弱い、弱いにもかかわらず前に進む実感。何かを越えて前に進むと、一人ひとりができる社会活動を行う実感。

復旧工事で働いておられる職人さん達は額を流れ落ちる汗に、復旧と復興のための社会活動を実感されていることと想像します。私自身は何かを実感しながら生かされている自分がいることを、「実感」しています。

これからも、ルーテル学院は「生徒たちがこの学校で学びの時を持って良かった」と実感し感謝できることを誇りと喜びとして、“感恩奉仕”のもとで教育の業に励みます。

校長室の扉を開けて廊下に出ますと目の前に、生徒作品の2枚の書が掛けてあります。

一枚は、学院聖句「わたしが来たのは、羊が命を受け、しかも豊かに受けるためである」

もう一枚は、永六輔さんの歌詞、坂本九さんの歌の一節「上を向いて歩こう 涙がこぼれないように」

どちらの書が上に掛けられているか？もうお分かりですね。

校長室から出るたびに、建学の精神をあらわす「学院聖句」に勇気と元気をいただいております。

どうせ流すなら、喜びの涙、嬉し涙とともに日々の学校生活を送っていききたいものです。